研究だより

秋田県立秋田きらり支援学校
No.2 令和8年 10月9日発行

授業改善に向けて～見取りのワークショップ～

昨年度から、研修会や授業研究会を通して「見取り」についての理解を深めてきました。授業中の子どもの姿や反応について、教師がそれぞれに捉えた「事実」を出し合い、そこから子どもの内面や思い、思考の過程を推測する「解釈」を行います。そして、それぞれの見取りを教師間で共有しながら、児童生徒の学びを考え、次の授業の改善につなげる取組を進めてきました。

今年度は、教師間で「見取り」を共有するツール**『見取りのワークショップDigital』**を活用しています。授業後の見取りを共有しながら授業を振り返り、「改善案」を考え、次の授業（改善授業）へとつなげていきます。また、児童生徒の姿を蓄積する記録のツールとしても活用しています。



Tips ： 見取りの仕方 ～「事実」と「解釈」に分ける～

その「事実」に「解釈」が入っていませんか？「見たこと・聞いたこと」を書いているつもりでも、いつの間にか解釈や主観的な印象が入り込むことがあります。事実と解釈を分けて付箋を書いていきましょう。

▲事実の中に解釈が混じる例	○事実と解釈を分けて書くなら…	
・○○先生を見ると、安心したように笑った。 ↓ ・「先生を見る」＝**事実** ・「安心したように」＝**解釈**	**【事実】** ・音楽が流れると教師の顔を見た。口元が動き、３秒ほど笑顔になった。	**【解釈】** ・教師に気付き、安心したのではないか。
・活動に飽きてしまい、落ち着きがなくなり席を立って後ろを見た。 ↓ ・「席を立った」「後ろを見た」＝**事実** ・「落ち着きがなくなった」「飽きてしまい」＝**解釈**	**【事実】** ・活動の途中で席を立ち、教室の後ろを見ていた。	**【解釈】** ・教室の後ろに気になるものがあり、注意が向いたのではないか。活動への関心が低下していたのではないか。

「解釈」は一つの見方で正解はありません。一つの姿から、児童生徒の思いや考えを「もしかしたら…」と考え、教師同士で語り合うことを大切にしています。一人の気付きがみんなの学びにつながりますように…！